

2020.10.31

## 紙つぶて



## 同調圧力

水島 広子

基づくもののように私は思っている。そしてその感情は「怖れ」のように思う。「みんなが一緒にないと怖い」のではないだろうか。

同調圧力は、もちろん、多様性の尊重をも妨げる。私は二〇〇〇年に衆院議員になる前から選択的夫婦別姓を実現する活動をして、ずいぶんいろいろな人と議論したが、「なるほど」と思える反対意見に出会ったことがない。最近では、議論の機会が設けられても反対派が逃げ出す現象も多い。

同調圧力をかけたり、同調圧力に負けたりしないようにするには、健康な自己肯定感が必要だと思っているし、少なくとも自分は同調圧力と無縁の人生を歩みたいと思っている。(精神科医)

最近、「同調圧力」という言葉を聞く機会が増えたように思う。同調圧力とは、多数派とは異なる意見を持つ少数者に対して、多数意見に迎合させようとするプレッシャーのようなものを意味する。本当はやりたくないのに、いじめられるのが嫌で、他の生徒と同じように悪事を働くはめになる、というようなケースは案外知られている。

昨今、同調圧力を強く感じるのは、例えばコロナ禍におけるマスクの使用である。屋外でマスクをしていなかったからと大人に怒られた小学生の例も聞いた。なぜ小学生を怒る必要があったのか、科学的根拠を述べられる人はいないと思う。それ以外でも、同調圧力は、理屈でなく感情に